

令和3年度 中央区教育ミーティング 会議録概要

開催日時	令和2年12月18日(金) 午後1時30分から午後2時35分まで
会 場	新潟市民プラザ (NEXT 21・6階)
出席者	中央区自治協議会委員28名(欠席10名) 区PTA連合会:副会長 筆頭副会長代理 教育委員:小野沢裕子教育委員 大宮一真教育委員 事務局:教育総務課長、教育総務課係長、保健給食課長、学校支援課長補佐 学校支援課指導主事、中央公民館長、中央図書館長補佐 中央区教育支援センター所長 他7名 傍聴者0名 マスコミ0名
議 事	1 開会 2 教育委員挨拶
小野沢委員	昨年に続いて中央区を担当しています。なかなか窮屈な日々が続いていますが、子どもたちは対応能力があるなあと思っています。どうぞこれからもよろしくをお願いします。
大宮委員	今年度から教育委員を任命させていただいています。中央区担当で、住んでいる所も中央区です。所属はPTAで、市のPTA連合会の会長を3年させていただき、現在は顧問として関わっています。いろいろなご意見を聴かせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。
議 事	3 説明 (1) これからの時代の学校教育について(タブレットを活用した授業) (2) 新しい生活様式を踏まえた学校運営について (3) 質疑応答 ※(1)(2)の説明内容は会議資料を参照
司 会	それでは、これより質問に入りたいと思います。今ほどの2つの施策の説明で、ご質問などはございますでしょうか。ございましたら、マイクをお持ちしますので、挙手をお願いいたします。なお、発言される際は、所属とお名前と、どちらの施策に対するご質問か、お聞かせ願いたいと思います。よろしくをお願いいたします。
自治協委員	タブレット端末の件についてお伺いします。10日ほど前の読売新聞で、タブレット端末を先行導入した諸外国で、子どもたちの視力の低下が顕著に出ているという指摘がありました。私も小学校4年ぐらいに一気に悪くなって、今眼鏡を使っているんですが、さっきのスライドでも、結構眼鏡をかけてた方が多いように見かけられましたので、今身体検査というのは年に1回なんではないかな。視力とかの。例えばその視力の具合を継続的に測り、全

	<p>体の傾向を見て、悪化が見られるようでしたら何らかの対策が必要になると思うのですが、この点はいかがお考えでしょうか。以上です。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>ありがとうございます。健康面というのは、本当に大事なご指摘で、国のほうでもこれまで、このGIGAの導入までに、たくさんのデータをとってきてあります。それで、それに基づいて、今回実施になりました。ただ、やはり今おっしゃったように、例えば姿勢とか、それから連続してずっと画面を見続けるとかということについての懸念というのは、やはりあります。それで、今ちょうどこのデジタル教科書について、文部科学省のほうで検証会議というのをしております。そこでの、この間医療者の方がエビデンスを基にお話ししていた内容は、30センチ離す、そして30分ごとに目を休ませる、そういったようなことを意識して指導していくことが大切であるというような話がありました。それで、今このコロナと同じように、GIGAスクールについてのガイドラインというのも作成しております。その中に、そのような文言を入れながら、また学校のほうで指導をしていくというようなことを考えております。よろしくお願いいたします。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>GIGAスクール構想のことで、ちょっと教えていただきたいんですけど、非常に便利なツールだと思うんですけど、やっぱりこういうものってというのは、どんどんどんどん進んでいって、パーソナル化が進んでいくと思うんですよ。そうすると、今のだんだんなくなってきたコミュニケーションというのが、恐らくは減っていくんじゃないかなと思うんです。そんなことは、どの程度までこういうデジタル化に対して考慮をしているのか、その辺をちょっと教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>今の点につきましても、やはりすごく気になるころだと思われま。それで、今回1人1台端末になることで、コミュニケーションが減るかというのと、むしろ逆に増えるんじゃないかというふうに言われています。というのは、使わせ方によるんですけども、もうドリルだけをひたすら1人でやるというイメージではありません。そういうような場面ももちろん出てくるわけですけども、先ほどビデオで見ていただいたように、友達と一緒にチームで課題解決をしていくような授業が主流で、ほとんどはむしろそっちのほうになるので、一緒にプレゼンテーションをつくったり、お互いに、ここの画面は僕がつくって、もう1つは友達がつくって、それをこう一緒に送り合っつけていって、一緒に発表するとか、そういうような授業スタイルになっていきますので、今のご指摘のように、本当にコンピューター使って、コミュニケーションなくなって、何か画面に向かってただ1人1人がやるようなというような授業イメージではまったくなくて、そうならないよう</p>

<p>自治協委員</p>	<p>に、でもやっぱり指導、私たち教育委員会も、また現場にメッセージを発信していくことが大事と思っております。ありがとうございます。</p> <p>各生徒の学習に、先生の手元に、各生徒のマスターキーなんかあるのでしょうか。この学習内容がわかるのでしょうか。また接続すればゲーム等が可能なのでしょうか。ソ連は何年か前から、1人1人にパソコン授業が始まっています。タブレットとの差異はどのようなものがあるのでしょうか。スクリーンに映し出されましたが、ソースカツ丼、中島屋さんが映っていました。これプレゼンテーション、使い方によっては、家庭の中に入っていきます。1つのお店の過度な宣伝にもなるんじゃないのでしょうか。これちょっとお聞かせください。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>セキュリティの問題とかのご指摘かなと思うのですが、確かに普通のご家庭にある、ただのiPadのままだったりすると、何でもどこでもネットを見れたりだとかいうことがあって、心配かなと思われると思うんです。そうではなくて、一定のフィルタリングというものが端末の中にあって、まず危険なサイトとかは基本的に見られないような形の設計になっております。また、子どもたちがやり取りしている履歴とかも、必要に応じて先生のほうで見られるような仕組みが構築されていて、安心安全に学習を進めていくことができるように工夫をしています。また、何でも、ネットのオンラインゲームとか、あるいはアプリケーションのゲームとか、そういったものは基本的にはインストールされていません。あくまでもこれまで、むしろ野放しというか、家庭用ではゲーム中心にずっと日本の子どもたちはやってきていて、それで学習の中でICT活用というものが世界でもワーストになっていた、その実態だったんですね。そこひっくり返すための政策になっておりますので、むしろこれからは、そういうような学習に使う良さを監督して、そしてゲームとかそういったことのリスクを自分でコントロールできるような子どもにしていくと。そのために家庭と学校で連携して、地域と連携しながらやっていくというような形で、進めていきたいなと思っております。</p> <p>ですので、私たちのガイドラインとかも、また地域の方とかにも見られるような形で公開もしながら、一緒に子どもたちを育てていければなというふうに思っております。よろしく願いいたします。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>私も新潟市GIGAスクール構想について質問です。2つあります。まずこのタブレットを、小・中学生1人に1枚配るとのことなのですが、これにあたって、家庭での負担があるのかどうかということ。経済的な面で。それが1点と、それから先ほどお話の中で、聴覚障がいがある児童にも有効に利</p>

用することができるというような話があったんですけども、このタブレットを配布するのは、聾学校、盲学校、それから特別支援学級も含めて、等しく配布されるものなのか。また障がいをお持ちの児童は、また個別での対応、使用にあたってはサポートしていかなくちゃいけないと思うんですけども、そういったところも考えてらっしゃるのかを、ちょっと教えていただきたいなというふうに思います。

学校支援課

まず、経済的な負担についてですけども、今回これは国の補助を受けて、足りないところは新潟市のほうの費用でまかなっているんで、そういった意味で言うと、学校内のネットワークとか、端末とか、そこに発生するアプリケーションとか、そういったものについての負担はまったくない中でのスタートです。ご家庭に持ち帰ったときにおいては、Wi-Fi を使うのであれば、家庭の Wi-Fi につないでいただくことになりますので、そこでの通信料が発生するといえば発生をします。ただ、格差に対応するために、ご家庭に Wi-Fi がないけど使いたいとかいうご家庭もあつたりすると思うので、教育委員会としては、モバイルルーターを貸与できるような形で、それは無償貸与する形のサポートを、4月に向けて今準備をしているところでございます。ただその通信料、もし負担を普通にしてしまうと、今度ある方のうちには通信料が負担してもらって、ない方にはただで貸すとすると、それはまた逆の意味の問題が出てくるので、ルーターはお貸しするけど、通信料についてはご負担いただくというようなことで、今のところはバランスをとっているところになります。

それから、特別支援についてですけども、新潟市は特に特別支援教育ということをずっと重視してやってまいりましたので、今回の GIGA スクールにおいても、特別重視している設計になっています。具体的に申しますと、この iPad 採用したのも、それが1つの理由で、アクセシビリティが高いということですけども、一番そういうお子さんにとって使いやすい機能がある。かつ、そこに入れる個別のアプリケーションだとか、あとアプリ以外にも、例えば口で、手で触れない、キーボードが打てないというお子さんもいらっしゃるんですよ。そういうお子さんを対象に、キーボードじゃなくて、代わりに丈夫な、落としても壊れにくいようなカバーに選択して変えることができるようになっています。それからほかの支援機器ということで、大きなボタンマウスといって、マウスをこう、ボタンを押すことで何かできる、大きいのがあるんですけど、そういうものだとか、あるいはタッチペンのようなものや、それから口でくわえて書くようなお子さんにも対応するとか、そういうさまざまな障がい種に応じた合理的配慮、それをそっちのサポートセンターの方とも連携しながらリスト化して、整備をしていくということで、その視点、どの子どもということができるだけ、できるだけというか、本当によ

<p>自治協委員</p>	<p>く考えてやっているところでありまして、そのことについて、特別支援学校のほうとも相談をしながら、今進めているところです。なので、今後もぜひお気付きのことがあったらむしろ教えていただくと、またどんどん対応していきたいと思いますので、ありがとうございます。</p> <p>理解しました。安心しました。Wi-Fi 環境も、家庭の Wi-Fi 環境もそうですし、障がいがあるなし、それは皆家庭の事情や個人によっては、本当さまざまだと思うので、それによって教材が変わるとか、そういう差がないようにしていただきたいなというふうに思っていたので、今の説明聞いて、非常に納得をしました。必ずしもデジタル化が私はいいいとは思わないですけど、今までのアナログだって非常にいい面もあったと思うんですが、機械が人によって変わるとか家庭によって変わるというのはよくないなと思ったので、今後もそういったところは、マイノリティ、少数派の方かもしれないですけど、そういったところの合理的配慮というところは、今後も続けていただきたいなというふうに思いました。以上です。ありがとうございました。</p>
<p>自治協委員</p>	<p>今日の皆さんのすばらしい教養と、ちょっと内容が、質問がずれているかもわからないんですが、2つほどありますので、できましたらお願いします。</p> <p>1点目は、今40人学級から今度35人とかっていう話が、一部情報でありますけど、このいわゆる少子高齢化ですから、今の時代に沿っているんだかもわかりませんが、これとタブレットの関係とかは連動しているんでしょうか。その辺いかがでしょうかというのが1つです。</p> <p>それから2つ目は、学校の先生全体の関係なのですけれども、最近のいじめとかですね、それから学校の先生が非常にいろいろ学校で苦勞してて、自分の時間なんかなくて、早朝から深夜まで、いろいろ部活の関係とか、新聞等、テレビ言われていますけど、非常に先生がみんな疲れているんじゃないかと私思うのですけれども、休みなしとかね、そういうことで相当問題があるんじゃないかと思うのですけど、その辺の、もう少しゆとりのある教育のための、先生の働き方改革といいますかね。もうちょっと楽になるような方法は、何か考えてられるのかどうか、ちょっと参考になる点があったら教えていただきたいと、以上2点です。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>1点目について、私のほうからお答えをさせていただきたいと思います。35人学級とGIGAスクール構想の関係ですが、これは直接的にそのところがぴったりとっているというわけではなくて、それも含めた大きな枠組みの中で、今中教審のほうで、次の令和の授業づくりということで進めている中で、やはり全部かかわるといえるのか、働き方改革も全部含めたところの議論</p>

をされている中で言うと、これからの教育政策ということであると、全部一まとまりなのかなとは思っています。より目が行き届いた中で、先生方もゆとりを持って、タブレットを使った授業をしていくと。タブレットを使った授業というの、やはり先生方にとっては負担になる先生もいれば、逆にそれによって効率化を図って、より楽になる先生もいらっしゃるんですね。それ現状のところでは、そこを、やっぱりこの同僚性を発揮して、みんなで助け合いながら、働き方改革をしながら、授業の改革をしていくという、一体化してやっていくという点で言うと、今の35人学級の議論というのはとても大事で、ありがたい方向に動いているなというふうに思っているところでございます。

学校支援課

2点目は私のほうから。よく教員はブラックな仕事だとかいうふうなことがメディアでも書かれたりしていますけれども、熱意があればあるほど、自分で忙しくしてしまうところも、正直言って教員という仕事はあります。ただ体制として、それを少しでも緩和していく措置は必要だと思っていますね。例えば、文科省も出していますけれども、これは学校の業務である、ただ今まで学校でやってきたけれども、これは地域の方をお願いをすることができる業務である、これは家庭で行うべき業務であるという、いろんな割り振りも出しているのです。ぜひ、今のご質問に答えるとするならば、学校が担っている役割がどんどんどんどん年々大きくなっているところがありますので、ぜひ地域の皆様、保護者の皆様からも、担っていただく部分というのがかなりこれから出てくると思っていますので、ご協力お願いしたいということがまず1点です。

次に、特に中学校の教員が、一番多忙感を感じるのは部活動です。平成30年、スポーツ庁が部活動ガイドラインを出しました。それに伴って、文化庁が10月に、文化部の部活動ガイドラインを出しました。そこでは、平日は2時間程度、土日のうち1日は休んで、そのうちの1日は3時間程度で部活をしてくださいというガイドラインがあります。今まで、部活動がとても大好きな子どもたち、先生方も、今でもいるんですけれども、歯止めなくやったことによって、先生方も疲れて教材の準備ができないとか、子どもたちも疲れてしまうということがありましたけれども、そのガイドラインができてから、新潟市もそれに準じたガイドライン策定しましたけれども、かなりの効果をあげています。実際に超過勤務時間も減っているんですね。ですので、このガイドラインは、また見直しを図りながらも、継続をしていきたいというふうに思っていますし、もう1つ教育委員会として、よく現場の先生方から注文をされるのは、調査が多いと。アンケートも多くて、提出文書が多かったり、いろんな文書が多く来るけれども、こんなに多くいるのかという話なんかもあるんですね。働き方改革の検討会も、教育委員会内で立ち上げて

<p>司 会</p>	<p>います。実際に、各課で出している文書、これ1本化できないかとか、この時期に集中するので、少し分散できないかとか、そういう話し合いを進めていますので、現場に迷惑がかからないように、これからも取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございました。</p> <p>いろいろお聞きになりたいこともあろうかとは思いますが、お時間もまいりましたので、最後の質問とさせていただきます</p>
<p>自治協委員</p>	<p>先ほどタブレットのところで、障がい者の方で、目で見られる障がい者の方はいいんですが、盲学校でのタブレットは、音声とか何か特種なタブレットがあるものなのではないでしょうか。そこを教えてください。</p>
<p>学校支援課</p>	<p>新潟市について言うと、盲学校は県立盲学校なので、その学校についてはまた別なんですけど、新潟市においても弱視学級もごさいます。アプリケーションによるんですけど、今新潟市にいらっしゃる対象の子どもからすると、拡大用の特別なアプリケーションがあると認知ができるというような形に聞いてます。その子に合ったものをお使いいただくというようなことで、対応をしていきます。完全に盲のお子さん、盲学校の中でもいらっしゃると思うんですけど、音声のほうでそこをサポートしていくようなアプリケーションがあります。つまり視覚情報を言葉にして、耳のほうで理解していくというようなアプリケーションもごさいますので、その辺りはかなり特別支援の教育の中でも、iPad と相性のいい、そういうアプリケーションが個別に開発されているので、今の技術でできる中では、やれることはすべて新潟市としてもやれる環境をつくっていくということで、努力をしていきたいと思っています。お答えになっていたでしょうか。どうでしょう。ありがとうございました。</p>
<p>司 会</p>	<p>お時間もまいりましたので、これで質疑応答を終了させていただきたいと思えます。また何かありましたら、個別にお問い合わせいただければ、教育支援センター、あるいは学校支援課等で対応させていただきたいと思えます。質問・ご意見、ありがとうございました。</p>
<p>議 事</p>	<p>4 中央区自治協議会会長挨拶</p>
<p>司 会</p>	<p>最後に、中央区自治協議会会長様から、閉会のごあいさつをいただきたいと思えます。よろしくお願ひします。</p>
<p>自治協議会 会長</p>	<p>ただいまはコロナ禍という難しい状況下にあつて、学校教育についていろいろと対応策等ご説明いただきまして、まことにありがとうございました。これまでなかった、新たな分野、取り組みであり、いわゆるこれまでよりも</p>

	<p>余分な仕事が増えるということ、教育現場では大変困惑されているのではないかと拝察をいたします。また、日々子どもたちのためにご苦労されておられます、現場の教職員はじめ関係者の皆さんに対して、深く感謝を申し上げますとともに、心から敬意を表する次第であります。</p> <p>しかしながら、一方、耳の痛い話なんです、昨今のマスコミ報道を拝見、拝聴していると、去る12月13日の新潟日報の新聞記事では、小学校の校長先生が覚せい剤を所持していたということで、逮捕されている記事が出ております。またこれまでも、ときどきあつてはならない教師のパワハラやセクハラ等の不祥事が相次いでいることを見れば、教育現場でもいろいろと潜在的な事情が多くあるのではないかなと推察するところであります。</p> <p>そういう意味で、どうか当教育委員会におかれましては、いろいろと困難な状況下にあるとは思いますが、常日ごろから教育現場の教師に対して、研修や指導をきめ細かく行って、不祥事の起こらないようご努力いただき、子どもたちから崇拜される立派な教育者であることを願って、終わりのあいさつといたします。ありがとうございました。</p>
議 事	5 閉会
司 会	以上をもちまして、令和2年度中央区教育ミーティングを閉会いたします。皆さま、長時間にわたりありがとうございました。